



第50回包装情報ステーション

ヒートシール技法の最新の動向!【特別講演会】

加熱速さのヒートシール強さに及ぼす影響の実際と現象の利用活用

プラスチック材料を利用した包装にはヒートシール技法は不可欠であるが、経験則に頼らざるを得ない合理性に乏しいヒートシール技法の議論はあまり楽しくない。

「加熱速さがヒートシール強さの発現に大きく影響する」【Hishinuma効果】が発見され、従来は「加熱温度」と「ヒートシール強さ」の2次元的現象として取り扱っていたものが、実は「加熱温度(動的到達温度)」、「(所定温度の)到達時間」、「ヒートシール強さ」の3次元現象であることが確認され、不愉快は一変した。

本講では、【Hishinuma効果】の実測事例をもとに「加熱速さ」の影響を理解するとともに、「温度」、「時間」、「圧力」(定義不明)をヒートシール技法の制御要素として扱ってきた従来の“常識”の欠陥を明確に解説する。

機能性包装材料のヒートシール特性の適格な特性評価への【Hishinuma効果】の測定法の利用、【Hishinuma効果】を利用した新規な包装材料の新設計、学問、技術開発の展開を模索する。

と き

2013年2月18日(月) 13:30~17:00

と ころ

日本包装技術協会 会議室
(東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F)

講 師

菱沼 一夫 氏 [技術士、博士(農学)] 【Hishinuma効果】の発見者
菱沼技術士事務所 代表 東洋食品工業短期大学 講師

主 催

公益社団法人日本包装技術協会

参加費

JPI法人・個人会員の方：5,250円(税込) / 1名
一般の方：10,500円(税込) / 1名

【講演要旨】

1. ヒートシールに期待される包装機能
2. 従来のヒートシール技法の復習と欠陥の確認
3. 「加熱速さ」がヒートシール強さに及ぼす【Hishinuma効果】とは?
4. 【Hishinuma効果】の測定方法と実測事例と考察
5. 【Hishinuma効果】が顕著に現れている事例
(“混ぜ物”が多くなると顕著な現象を示す)
6. 【Hishinuma効果】の測定法の利用と展開(機能性設計の合理的評価、新材料の開発)
7. 質疑応答 / 意見交換

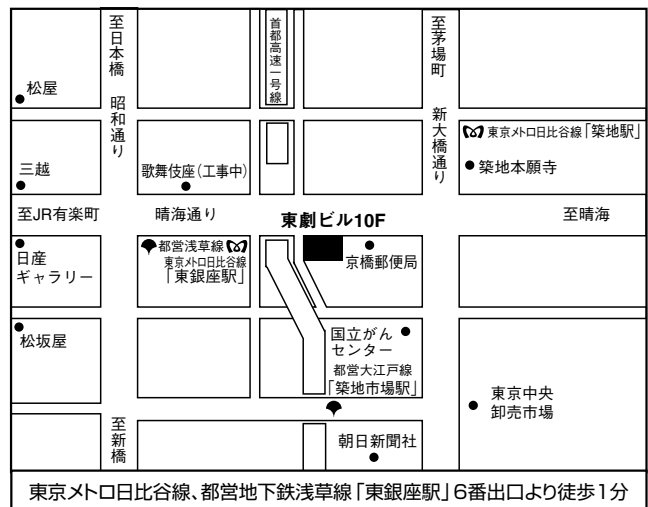
定 員

50名 (定員となり次第、締切とさせていただきます。)

参加申込方法

- 下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。
- 「参加証」と「請求書」は、下記お申込み欄の1番へご記入の方にご送付いたします。なお、受講日の10日前までにお手元に届かない場合は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。
- 参加費の払い戻しはいたしません。参加予定の方のご都合が悪い場合は、代理の方のご出席は差し支えございません。

会場案内



第50回包装情報ステーション 参加申込書 (FAX 03-3543-8970) 参加を希望される場合は、下記申込書にご記入の上、本紙をFAXして下さい

会社名				法人会員 ・ 個人会員 ・ 一般
所在地	(〒 -)			
	TEL		FAX	
	URL	http://www.		
参加者	①	(氏名)	(所属役職)	
		(e-mail)	@	
	②	(氏名)	(所属役職)	
		(e-mail)	@	

お問合せ先: 〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F TEL:03-3543-1189 担当:小川

個人情報の取扱いについて 1) 個人情報は「公益社団法人日本包装技術協会 包装情報ステーション」の事業実施に関わる資料等の作成、ならびに当会が主催・実施する各事業におけるサービス提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り、配布する場合があります。 2) 参加申込によりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合等を除き、個人情報を第三者に開示、提供することはありません。